

みなとっふ

地域の魅力を地元から発信

Takanawa Community News Magazine

高輪地区情報紙

三田4・5丁目・高輪・白金・白金台

2023年7月

Vol. 49

発行:高輪地区総合支所 協働推進課

編集:みなとっふ編集室

<https://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>



歴史を語り継ぐ建物―ゆかしの杜―

「ゆかしの杜」は、昭和13（1938）年に建てられた「旧公衆衛生院」の建物を保存・再生したものです。

旧公衆衛生院は当時、東京帝国大学教授だった内田祥三氏の設計によるもので、

ゴシック様式を基調とした「内田ゴシック」と言われる重厚なデザインです。約80年前の建物を耐震改修し、「ゆかしの杜」として、

港区立郷土歴史館、白金台区民協働スペース、がん在宅緩和ケア支援センターなどが入る複合施設として活用しています。

この耐震・改修工法は平成30（2018）年度の耐震改修優秀建築表彰で「国土交通大臣賞」を受賞しています。

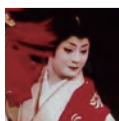


ゆかしの杜 (写真/松島 文/安藤)

CONTENTS

P2 施設訪問
神応ほっとプラザ

P3 この街にこの人あり
おのえひろみ
尾上博美さん(日本舞踊)



P4/5 地域のあしあと
時代を見つめてきた高輪の道

P6 地域の活動
高輪ハッピーマーズ
少年野球チーム「高輪台ファイターズ」



P7 まつり紹介 清正公大祭
ペット 私だって地域の一員! 犬のろくちゃん



P8 区からのお知らせ



木製のルーバーをつかって壁面緑化しています



エントランス外観

DATA
神応ほっとプラザ
港区白金6-9-5
※開館日時・休館日は
施設ごとに異なるため、
港区ホームページをご覧ください。



旧小学校の面影を残す門柱

令和5(2023)年4月に開館した港区立神応いきいきプラザ等複合施設「神応ほっとプラザ」をご紹介します。

担当の高輪地区総合支所管理課管理係長の清水栄男さん、同副係長の竹田賢仁さんからお話をうかがいました。その後、竹田さんのご案内で施設を見学しました。

竣工は2023年、旧施設の文化を引き継ぐ

神応ほっとプラザは、旧神応小学校の建物の躯体だけ生かし、内装、外装、設備をすべてリニューアルする、スーパーリフォームの手法を使って整備されました。既存不適格の建物でしたが、この方法で現行法令に適合させ4階まで活用することができました。

築年数の古い建物のリフォームで新築と比べて不利なことは、窓枠のサイズが既製品と合わず交換工事が大変なこと、配管を設置するために天井高が低くなること、空調設備が個別の部屋対応になること等があげられますが、コストを抑え、広いスペースを確保できました。また、新耐震基準に対応し、エレベーターも3基備えています。

施設の内容については、行政需要をふまえ、周辺町会と懇談会を開いて協議を重ね、多世代の地域コミュニティの拠点として利用されるよう配慮されています。

外観は、旧小学校の門柱のデザインをモチーフとして、旧小学校の面影を残しました。また、エアコンの室外機を隠すために木製のルーバーを設置し、壁面緑化も行っています。そのほか、敷地の一部を後退させることで歩行者のための空間を広げることや、シェアサイクルのポートの整備を行いました。

施設の内容について

1・2階は保育園、3階は学童クラブ、4階はいきいきプラザと区民協働スペースとして利用されています。

元校庭の半分は保育園が使い、残り半分は区民協働スペースの多目的ひろばとしており、日常的には学童クラブが使っています。体育館はいきいきプラザのスペースとなっており、館主



子どもたちが楽しくすごせる図書室(学童クラブ)



ゆったりと落ち着いた雰囲気の保育室(保育園)



ひろびろと明るい体育館(いきいきプラザ)

催の事業や貸室利用で卓球、バドミントンのほか、多くの人が参加できるイベントも開催されます。

いきいきプラザでは、60歳以上の趣味やレクリエーション、学習活動の場、介護予防、健康づくりの場として様々な活動を行っています。

保育園は、定員114名と高輪地区の中でも大きな保育園です。学童クラブは小学生を対象とし、就労などの事情で下校後、家庭での保護を受けられない児童の日常生活と健全育成を目的としています。定員は170名と、区内でも多い方です。様々な活動プログラムが用意され、子どもたちが健やかに過ごせる場所となっています。

区民協働スペースは、地域の皆さんが区とともに地域の課題解決を図る活動拠点として設置されています。広い1部屋を間仕切りで2つに分割して使うこともできます。

また、災害が発生した時は、いきいきプラザが区民避難所となること、蓋がけした旧プールの水は消火用の水源として利用できること、72時間対応の非常用発電装置が整備され、食糧等の備蓄やマンホールトイレもあることから、防災拠点としての機能が十分考えられています。

取材を終えて

建物全体は、リフォームとはいえ、新築と変わらずどこもびかびかです。広い多目的ひろばと体育館があるのがコミュニティ施設として大きな利点です。どのスペースも広々として余裕があるように見えました。



みどりも鮮やかな多目的ひろば(区民協働スペース)

この街にこの人あり

おのえひろみ

尾上博美(中里博美)さん

(尾上流日本舞踊名取・師範)

プロフィール

1970年 東京都出身
3歳から日本舞踊とバレエを学ぶ
1979年 東京新聞主催、全国舞踊コンクール児童舞踊部第一位(バレエを踊る)
1992年 尾上流名取
2001年 尾上流師範、日本舞踊研究会「花」結成
日本舞踊協会主催の舞台のほか公演多数

「和装を通じて子どもたちを元気に 高輪・白金から活動を広めたい」

日本舞踊を通じて地域の文化活動に取り組んでいる尾上流日本舞踊師範の尾上博美さん。舞踊グループ「花」を主宰しての踊りの披露だけでなく、白金地区の小学校における親しみやすい舞踊の講習会を開くなどの取り組みも進めています。国立劇場小劇場での舞台公演が控えているなか、活動の場の一つでもある芝浦1丁目の港区立伝統文化交流館でお話をうかがいました。

伝統文化交流館の舞台の前ですが、 まずこの施設との関わりからお聞かせください

新型コロナウイルス感染症の初期の頃ですが、(感染防止の)マスクが不足していて、全く入手できないとの声が上がっていました。私になにかできることはないかと考えて、手製のマスクを無償で提供することを計画、少量ですがなんとか実現することができました。この過程で区議会議員をはじめとし地域で活動する方たちと知り合うことができました。この時期にちょうど港区が古い施設を改装して伝統文化の交流の場を作るということで、(日本舞踊家として)



「長唄 連獅子」の仔獅子 国立劇場小劇場にて(本人提供)

私も会員の一人となることにしました。具体的には年に一回開かれる伝統文化の披露の場に、私が主宰している舞踊グループ「花」の踊りを披露することです。

区内の小学校でも活動されているそうですね

これも地域の方々とのつながりによるものです。港区協働推進委員会のメンバーである佐伯康雄さんのご紹介で、港区立白金の丘学園 白金の丘小学校の高学年を対象に簡単な踊りを紹介する活動です。千葉県の子供園では浴衣の着付けも行っているため白金でも計画しています。目指しているのは、“着物を着ることができた”という喜びを感じてもらうことで、なにか新しいことができたという体験を提供したいのです。着ることができた子どもたちは生き生きしているのです。このような形での地域貢献もあると思っています。

名取・師範の資格をお持ちですが、 日本舞踊との出会いはいつ頃ですか

幼少期、3歳くらいからではないかと思えます。私が幼かったころに父が事業を起こし、母もその支援のために多忙を極めて、子どもたちの面倒をみる十分な時間的な余裕がなかったため、私に日本舞踊とバレエを習わせたのでしょう。練習は厳しかったように記憶しています。このうち、バレエは骨格的に適していないと分かり、12歳で止めましたが日本舞踊は続けてきました。引っ越しを機に18歳で尾上流に入門しました。初代尾上菊之丞の教えである『踊るように生き 生きるように踊る』を一生の目標としています。私自身はお会いする機会はありませんでしたが、とても尊敬しています。師範になれたのは三十代の前半です。

地域との関わりで将来構想はありますか

夢はあります。和装は日本を代表する文化です。残念ながら初等の学校教育では全く触れられていないように感じます。個々の家庭環境に



港区立伝統文化交流館の舞台を背景に語る尾上さん

関係なく、15歳までに義務教育のなかで「和服を着る」楽しみを体験できるようにしたいと思っています。白金・高輪地区から発信の「着る喜びを体験する」活動が全国に広まっていければ、と考えています。

十数年前に高輪に転入されたと聞いていますが、 なにか理由はありますか

以前は世田谷区に住んでいたのですが、両親の年齢も考えて神奈川県での同居も考えました。しかしながら「自営業として活動していくなら、都心だ」と両親からアドバイスされました。現在住んでいるマンションは不動産業だった父の強い推薦がありました。住みやすい大変いい環境で、大好きです。



港区立伝統文化交流館 港区芝浦1-11-15
港区指定有形文化財である「旧協働会館」を改修して令和2(2020)年にオープンした多機能施設。展示室や憩いの間のほか「百畳敷」と呼ばれる舞台付きの大広間がある

東海道と高輪の古道

徳川家康が、初めて公式に江戸城に入ったのは、天正18(1590)年8月1日とされ、後年江戸幕府は、この日を正月に次ぐ祝日としていました。ルートは不明確ですが、相模国厚木通と奥州街道に続く古東海道を利用したようです。古い武家の日記によると、「渋谷方面から入り、二本榎徳明寺(現正満寺・高輪1-27)、当時千代田区平河町にあった増上寺で小憩、午後4時ごろ入城した」とあります。

●近世東海道の成立

家康は江戸入府後、直ちに道路改革を進め、品川より高輪を経て、後の日本橋・千住を結ぶ低地の大道路の開設を実施しました。

慶長6(1601)年正月、幕府は、家康の「伝馬朱印状」と「御伝馬之定」を各宿に交付。これをもって東海道に宿駅伝馬制度(※1)が敷かれ、近世東海道が成立しました。

(※1)宿駅伝馬制度(しゆくえきてんませいど)宿駅とは宿場のこと。伝馬とは幕府公用書類などを、宿場をリレー式で継ぎ立てるため、宿場が用意する輸送用の無料の人馬のこと。

参勤交代や赤穂浪士が引揚げに歩いた高輪の東海道

参勤交代は大名により経路が決められ、東海道は約150家の大名の経路に指定されていました。港区内には全国270家の半数以上の大名が屋敷を構え、毎年のシーズン(外様は4月、譜代は6月か8月頃が原則)には、高輪を通る東海道は多くの大名行列でにぎわいました。

大名同士の衝突を避けるため、その所領や石高・家紋を見分ける「下座見」という足軽があり、時に3,000人以上にもなる行列の約70%が「日用取」という派遣で支えられていたそうです。

また、高野山は紀州藩から独立した幕府天領扱いされ、高輪には明暦元(1655)年幕府より

●二本榎を通った街道

奥州街道

奈良時代には既に官道が通じていて、三田台上の丘を古代の奥州路が通っていました。

高縄通は海沿いの高台にある縄手(あぜ道)でこれに沿って高縄村があり、この海岸沿いの道は足利時代に早くも高縄手として知られていましたが、道幅は狭く、小さな村が点在する小径でした。中世にはこの道が鎌倉街道となりました。

中原街道

東海道の脇道のような道で、現在の虎ノ門を起点として、二本榎通より分かれて芝二本榎西町に入り、白金猿町を経て品川に至る道でした。丸子橋で多摩川を渡り、平塚宿で東海道に合流していました。

参考文献:
港区史
国史大辞典
港区近代沿革図集
港区立郷土歴史館資料館だより
今昔東海道独案内 日本交通公社出版事業局

下された「高野山江戸在番屋敷(現高野山別院)」があり、大名並みに参勤交代も行われました。

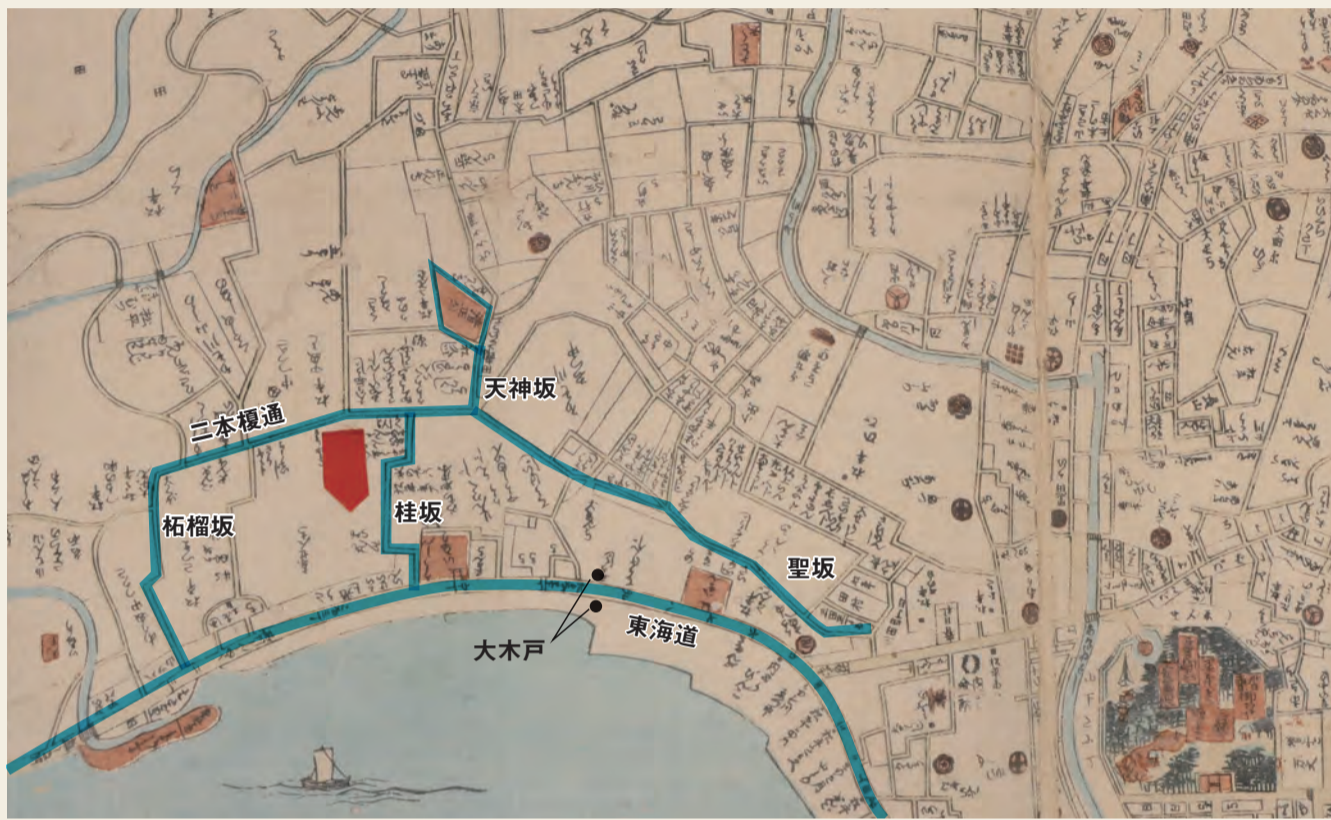
元禄15(1702)年12月15日午前6時頃、本懐を遂げた赤穂浪士が金杉橋を渡り泉岳寺を目指して歩いたのも、前日降った雪で路面が凍る東海道でした。12km、3時間の道筋、沿道や門前には情報やうわさを知らたがる大勢の民衆(江戸のすずめ)が集まったそうです。

参考文献:
高野山東京別院の系譜
大名行列を解剖する 吉川弘文館
赤穂浪士と吉良邸討入り 吉川弘文館
三河吉田藩・お国入り道中記 集英社インターナショナル新書
港区立郷土歴史館 常設展示図録

地域のあしあと

【時代を見つめてきた高輪の道】

道は人間の生活と共に始まりました。人は生きるために山野に狩りし、海川に漁をしてみました。そして他の集落との交流に伴い、道ができてきました。といつてもはっきりした道になっていたのではなく、たまたま通る人があって細い道となっていた所を探しながら進んでいったのでしょうか。道があってこそ人が住み、文化が浸透します。こうして永い時代を見つめてきた道は、今も我々の目前にあり、日々利用されています。今号では、高輪地区の道にまつわる話をご紹介します。



元治年間(1864年から1865年まで)の江戸図より高輪部分を拡大。高輪清林寺所蔵(高輪2丁目) 榎尾法彦上人によると、清林寺口伝では、天神坂～承教寺～清林寺門前～桂坂(崖だった)～東禅寺を抜けて品川へ出る道があったそうです。(注意:地図は当時の技術によって作られているもので、本来の位置や現在の状態とは異なっている部分があります。赤の矢印は清林寺、なお清林寺では一般拝観を行っていません)

江戸時代の朝鮮通信使

室町時代から始まった朝鮮通信使(※2)の派遣は、途中中断後、江戸時代になって再開され、慶長12(1607)年から文化8(1811)年まで12回にわたって派遣されています。

江戸時代、鎖国政策のもと、外国との国交関係を断つ中、唯一国交関係を維持していたのが朝鮮でした。朝鮮通信使の目的は日本の将軍の



「朝鮮通信使来朝図」羽川藤永作 神戸市立博物館 蔵

交代、もしくは政権の交代にともなって、その慶賀を行い朝鮮王国からの国書を手渡し、日本側の返書を受け取ることでした。

朝鮮通信使の編成は、正使、副使、従事官の3使の他、輸送係、医師、通訳等500人ほどに及んだといわれます。一行は現在のソウルを発ち、釜山から海路、瀬戸内海を通り大阪、京都に入り

ます。京都から江戸までは東海道を15・6日かけて移動しました。

一行は東海道最後の宿舎、品川の東海寺で一泊し、翌日、泉岳寺から高輪の大木戸まで行くと江戸市内となります。市内の道筋の武家屋敷は大門を開き、金屏風を立て、町々も華やかな幕で飾り、市民は異国のショーを見るように行列を見物したといえます。

(※2)室町時代から江戸時代にかけて朝鮮から日本へ派遣された外交使節団

参考文献:
江戸の外交都市 鹿島出版会
江戸時代の朝鮮通信使 講談社
朝鮮通信使の足跡 明石書店

幕末、高輪地区、東海道を往来した外国人ベアトとシュリーマン

幕末万延元(1860)年から慶応元(1865)年にかけて、攘夷の思想が吹き荒れており、東海道で外国人殺傷事件が多発していました。

ロシア海軍軍人殺害事件、日本人通訳殺人事件、フランス公使徒撲傷害事件、生麦事件、第1次、第2次東禅寺事件、井土ヶ谷事件などです。

当時、公使をはじめ、外国人が出歩くことは命がけでした。その中で、文久3(1863)年来日し、幕末に多くの写真を残したイギリス人の国際的報道写真家フェリックス・ベアトは、東海道など日本各地を旅行し、180点の幕末の写真を残しています。高輪地区では大名屋敷、東禅寺、品川などを訪れ貴重な写真を撮影しました。

もう一人、トロイアの遺跡を発見したドイツの考古学者ハインリヒ・シュリーマンは慶応元(1865)年に清国から日本を訪れ、3か月の短い滞在期間に、精力的に日本を旅行し、旅行記としてまとめています。高輪地区とその周辺では、イギリス公使館東禅寺、フランス公使館済海寺、オランダ公使館長応寺、ヒュースケンの墓がある光林寺などを訪れています。

参考文献:
ベアト写真とシュリーマン旅行記で語る1865年の江戸 日本写真学会誌
幕末日本の風景と人びと フェリックス・ベアト写真集 明石書店
シュリーマン旅行記 清国・日本 講談社学術文庫

明治天皇の東幸

慶応4(1868)年7月17日、江戸が東京になり、9月には元号が明治に変わり、明治天皇の東京への行幸(東幸)の第1回目が行われました。9月20日に、京都を出発された明治天皇は、10月13日朝品川宿→久留米藩主・有馬頼成邸(高輪:柘榴坂南側)で小憩→高輪大木戸→増上寺で小休→江戸城西の丸、と東海道を通られました。

明治元(1868)年12月8日に明治天皇は、東海道を陸路で京都に帰られました。父:孝明天

●ベアト撮影の写真



「駕籠昇き(かごかき)」(横浜開港資料館 所蔵)



「第二次東禅寺事件の現場」(横浜開港資料館 所蔵)

皇の三年祭と皇后を迎えるためでした。

明治2(1869)年3月7日東京へ再幸のため京都を出発された明治天皇は、3月27日品川宿に宿泊、高輪の東海道を通られ28日に皇居に入られました。

参考文献:
港区と皇室の近代 港区教育委員会
江戸が東京になった日 講談社
錦絵解析 天皇が東京にやって来た! 東京堂出版



「高輪付近を通過する東幸の行列」(宮内庁宮内公文書館 所蔵)

明治以降

明治になって間もない明治5(1872)年9月12日、東海道沿いの高輪の海岸に築堤を築いて新橋・横浜間を繋ぐ日本初の鉄道が開通しましたが、開通の4か月前の5月7日には日本初の駅として品川駅が開業しています。

乗り物が馬車や馬から電車や自動車に変わり、経済の発展に伴って道や街の景色も変わり続けてきました。

その高輪地域が今再び東京の玄関口として生まれ変わろうとしています。

これからも大きく変わっていくであろうこの街と私達を、高輪の道はずっと見守り続けてくれることでしょう。



工事が進む「高輪ゲートウェイシティ」を背景にした、旧東海道と高輪大木戸跡

参考文献:
文化庁広報誌 ぶんかる
品川駅創業記念碑

音楽
グループ

ゴスペル合唱グループ「高輪ハッピーママーズ」

高輪区民センター音楽室で練習している高輪ハッピーママーズ取材しました。
指導者の生貝隆先生と代表の細谷尚子さんからお話をうかがいました。

●名前の由来は？

高輪ハッピーママーズという名前は、「みなさまにハッピーを届けたい」という気持ちから名付けました。

●結成のきっかけは？

高輪ハッピーママーズは結成から22年目になります。
高輪児童館での保育つきのママ向けゴスペル講座に参加したメンバーが、自分たちの作るハーモニーの楽しさに目覚めて結成しました。

●メンバーは？

現在18名。メンバーは随時募集中です！ 体験は1回無料ですでお気軽にどうぞ。

●ゴスペルとはどういう歌ですか？

ゴスペルは、アフリカ系アメリカ人たちが通う教会から生まれた、プロテスタント系の宗教音楽の一つで、アフリカ系のリズムや歌い方が取り入れられています。同じ単語を繰り返す「リフレイン」や「コールアンドレスポンス」の手法が用いられています。私たちは宗教関係なく、音楽の1ジャンルとして楽しんでいます。



練習風景

●練習はどのようにしていますか？

練習は、高輪区民センターや高輪いきいきプラザで、午後、夜間ともに月2回ほど行っています。コロナ禍では、リモートで練習していましたが、Wi-Fiの速度が違うため、うまくハーモニーがとれないこともあり苦労しました。ですが、一人ひとりの顔が見えるので、指導しやすい面もありました。

●ゴスペルの歌い方で大事なことは？

ソウル・ミュージックなので、お腹から声を出すことです。腹式呼吸をすることが大事です。

●どんな活動をされていますか？

地域のイベントでは、東京マラソン、高輪地区まつり feat. Takanawa Gateway Fest、輪い輪いまつり、高松桜まつりなどに出演しています。

その他、老人ホームや保育園に出張し、とても喜ばれています。
(担当/安藤、佐々木、松島)



演奏会の様子

●夢は？

いつまでも、高輪ハッピーママーズとして、皆さんに歌でハッピーを届けたいと思っています！



福祉プラザさくら川デイサービスでの演奏

活動の様子はホームページからもご覧いただけます。



地 | 域 | の | 活 | 動

少年野球
チーム

高輪台ファイターズ



高輪台ファイターズの皆さん



昭和50(1975)年設立、48年の歴史を誇る「高輪台ファイターズ」取材しました。

高輪台ファイターズは、ジュニア(1~4年生)と高学年(5~6年生)の2チーム制です。ジュニアチームは現在19名、高学年チームは15名です。女の子も高学年/ジュニアともに在籍中です。メンバーは高輪台小学校、白金小学校、芝浦小学校、私立小学校など、多くの学校から参加しています。

ジュニアチームの鈴木雅史監督、高学年チームの武井好昌監督、結成時からのメンバー秋山孝之代表の3名にお話をうかがいました。

●活動日は？

土日祝日の9時から17時までです。高松中学校や区の運動場で練習をしています。グラウンドが取れない時は都内を中心に遠征試合を行い、練習量を確保しています。合宿は年1回、3泊4日で、山中湖などで行っています。

●受賞歴は？

令和5(2023)年、第13回真中満杯争奪学童軟式野球大会準々決勝進出(ジュニア)、高輪警察署杯優勝(高学年&ジュニア)、令和4(2022)年港区軟式野球連盟春季大会準優勝(ジュニア)など多数あります。

●ポリシーは？

野球技術の向上だけでなく、人生で活かせる学びがあるよう意識しています。「なぜ、そのようにするのか？」を考えること、「失敗をその場で取り戻そうとしない。失敗は認めて、次に生かす」等を伝えています(鈴木監督)。

●縦のつながり、横のつながり

OBもよく来るファイターズ。取材日も大学生OB4名が参加、入団して良かったことをうかがうと、「横のつながり、縦のつながりができたこと」とのこと。山中湖での夏合宿では部屋を縦割りにし、学



最新情報は、HP、Facebook、Instagramで発信中です。入会ご希望の方は、ホームページの紹介動画もぜひご覧ください。



年を越えてのつながりを強めるとともに、低学年の子が高学年から学べるよう工夫しているそうです。集合写真の撮影時も、低学年のリクエストで高学年が彼らを笑わせる場面があり、とても仲が良い雰囲気でした。
(担当/寺田、安藤、松島、佐々木)



左から秋山代表、武井監督、鈴木監督

祭

「清正公大祭」4年ぶりに開催



露店の様子



阿波踊りグループ「寶船」のパフォーマンス



白金・高輪地域では最大級のお祭り、「清正公大祭」^{せいしょうこう}が覚林寺や地域の町会・自治会の代表などで構成する実行委員会主催で、5月4日・5日に4年ぶりに開かれ、両日も晴れて多くの参拝者でにぎわいました。

白金の清正公さまとして親しまれる覚林寺は、安土桃山時代から江戸初期に活躍した武将、加藤清正ゆかりの寺で、大祭は清正公の武勇にちなんで、子どもたちが「強く育つように」との願いを込めてこどもの日に開催されます。武運の強かった清正公にあやかり、勝負と植物のショウブ（菖蒲）を掛けて、ショウブが販売されています。また、頒布の「勝守」に葉菖蒲が入れているのは4日・5日の大祭の日だけです。覚林寺から二本榎

通りに至る天神坂には露店が並びにぎやかです。お祭りには例年2万人近くが訪れています。

清正公大祭と同時に二本榎通りで開催される「のれんノ市」は、メリーロード高輪が主催です。地元商店会の飲食店が立ち並び、東海大学情報通信学部情報通信学科で「Takanawa共有プロジェクト」に所属する学生がこのコーナーに参加している商店のSNS作成に協力するなど、地域をあげてのお祭りとなっています。ここに、熊本城の城主だった加藤清正の縁により熊本県から物産展の出店があり、5日はくまモンや「寶船」の阿波踊りパフォーマンスもあって、訪れた人たちもみな楽しそうに4年ぶりの開催を満喫していました。（担当/山崎、安藤、阿部、長原）

ペット

私だって
地域の一員!

ろくちゃん (オス/2才・ポメラニアンとチワワのミックス) ★飼い主:川野さんご家族 (三田4丁目在住)

三田台公園での取材当日、最初は緊張していましたが徐々に笑顔を見せてくれました!



家に来た時から大事にしているおもちゃはお昼寝のお供

ポメラニアンとチワワのミックス犬を「ポメチワ」と呼ぶことをご存じですか? ポメチワの性格は人懐っこくて甘えん坊、勇敢などですが、なかには臆病だったり、警戒心が強い子もいます。

そんなポメチワのろくちゃんと川野さんとの出会いは、ブリーダーさんがきっかけ。ご家族でろくちゃんの写真を見て、すぐ会いに行き、一目ぼれをしたそう。

6歳になったばかりの碧士くん^{あおと} (長男) が良き遊び相手、碧士くんの小さくなった靴下を丸めて投げたり、つなげてロープのようにして引っ張ったりすると、とても喜びます。碧士くんがしていることは、なんでも興味を持って、ろくちゃんもしたがるそうです。

また、ろくちゃんは実はとっても人見知りだそうです。犬のしつけ教室へ通わせようと思いましたが、他のワンちゃんが多くて、ろくちゃん

が怖がったので、しつけは川野さんがご自身でされました。しつけは家ですることが初めてだったけれど、それでも頑張ってしっかり覚えてくれたとのことでした。

ろくちゃんの食事は、ドッグフードを中心に、ささみ、白身のお魚をまとめたものなどを食べているとのこと。取材中も、碧士くんと遊んでいる姿がとてもかわいくて印象的でした。

(担当/武内、滝川、山崎)



家に来て間もない頃のろくちゃんと碧士くん

区からのお知らせ



高輪地区総合支所の公式ツイッターでは、地域のできごとをはじめとした様々な情報を発信中。ぜひフォローをよろしくお願い致します！
@minato_takanawa



毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前に確認してください。

区民課窓口サービス係 ☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085

高輪地域防災支援チームのメンバー募集中

高輪地域防災支援チームは、高輪地区で防災ボランティアとして活動している任意団体です。

港区総合防災訓練（高輪会場）および地域のイベント等で防災啓発ブースを出展することに加え、地域のイベント等で子ども向けに楽しみながら学べる防災啓発を行っています。

また、定期的に防災講座の受講等を行い、防災知識を高める活動をしています。

高輪地区に関わりがあり、活動に興味がある人はお問合せください。



お問合せ先
高輪地区総合支所
協働推進課協働推進係
☎03-5421-7621

9月9日は「救急の日」！ 高輪消防署から救命講習のお知らせ

高輪消防署では、9月9日（土）に佛所護念会高輪教会（港区高輪4-1-5）を会場として、普通救命講習を実施することになりました。先着50名まで、個人団体を問わず参加できます。心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法などを学ぶことが出来ますので、ぜひこの機会にお申し込みください。

なお、教材費や実施時間等の詳細は、高輪消防署のホームページをご覧ください。申込み先にご確認ください。皆様のご参加をお待ちしています。



申込み先 高輪消防署警防課救急係
☎03-3446-0119



コミュニティ・カフェ高輪

高輪地区CCクラブ、高輪地区総合支所協働推進課、高輪区民センターそして地域の方が協働で運営し、地域の方が自由に参加できるカフェです。高輪区民センター2階展示ギャラリー前では毎月第2・4金曜日13:30～15:30頃で、ゆかしの杜では6階区民協働スペースで毎月第3金曜日13:30～15:30頃で、HUG高輪ではほぼ毎月第3火曜日にミニ講演会（14:00から）かカフェ（13:30～15:30頃）を開催しています。

地域の方が交流できる場所としてコーヒーを飲み、そしてお話ができる場所です。お気軽にお出かけください。



HUG高輪ミニ講演会（2023.05.16）

お問合せ先 高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当 ☎03-5421-7123

募集 予告

講演会「概念としての石」から読み解く 明治学院を中心とする日本近代の教会・学校建築

- 日時:11月4日（土）13:30～16:00（開場13:00）
- 会場:明治学院記念館・チャペル・インブリー館（明治学院白金キャンパス）
- 講師:橋本優子氏（デザイン・建築史家）

※申込期間・方法等詳細は9月初旬頃より、明治学院歴史資料館ホームページ等でお知らせしますのでご確認ください。ご不明点があれば以下のあて先までご連絡をお願いいたします（平日9:00～16:00）。

あて先 明治学院歴史資料館
☎03-5421-5170



令和5年度港区総合防災訓練（高輪会場）のお知らせ

令和5年度の港区総合防災訓練（高輪会場）は以下のとおり実施します。初期消火訓練や子ども向けの防災訓練のほか、事業者による普及啓発等を実施する予定ですので、是非ご参加ください。

- 日程:10月22日（日）
- 時間:9:30～11:30
- 場所:港区立高松中学校

お問合せ先 高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 ☎03-5421-7621



本紙のバックナンバーは港区ホームページ（高輪地区総合支所のページ）からもご覧になれます。

みなとっぴ バックナンバー

編集だより

※この情報紙は、区が公募応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

区民編集メンバー

安藤 洋一(チーフ)	佐々木 智秋
吉田 由紀子(サブチーフ)	滝川 まりえ
長原 眞智子(サブチーフ)	武内 枝里香
阿部 泰	寺田 亜紀子
池井戸 晴美	松島 佐紀子
伊関 則子	山崎 優子
大友 登喜雄	

▶新しい開発ばかりが目立っていますが、「ゆかしの杜」や「神応ほっとプラザ」など地域に残された思い出の建物を保存・再生して活用を図る試みに拍手を送りたいです。(安藤)

▶旧神応小学校校舎を活用してできた4階建の複合施設「神応ほっとプラザ」は、各世代が利用しやすい様々な工夫がされていて、素晴らしい建設技法にふれたと思います。(吉田)

▶編集に参加して2年目、今年から参加されたメンバーにも刺激をいただきながら、新しい視点での記事にも取り組んでいけると良いと考えます。(長原)

▶港区立伝統文化交流館を訪ねました。区内には都会とは思えない文化施設があると感じました。(阿部)

▶古地図と比べて、街がどんどん発展してきています。これからも、再開発でどんな風に変化するのを楽しみます。(池井戸)

▶二本榎は、昔から栄えていた町でした。道はこれからも新しい時代を見ていくのでしょうか。栄枯盛衰の話を聞いてみたくなりました!(伊関)

▶高輪の東海道を巡る歴史の一コマ(参勤交代と浪士引揚げ)を400字程度で表現する難しさを経験できました。(大友)

▶高輪台ファイターズの記事を担当。長年、地域に根差した活動を続けていて、素晴らしいと思いました!(佐々木)

▶三田台公園でのペットの取材に参加。碧土くんとろくちゃんが兄弟のように仲良しで、一緒に走り回るのがとても楽しかったです。(滝川)

▶今期より編集メンバーに加わり、ろくちゃんの取材楽しかったです。多くの方に読んでいただけるよう記事を作成してまいります!(武内)

▶今回、初めて取材に参加しました。温かく迎えて下さって感謝です。普段地域の方々に関わる機会が少ないので、貴重な経験でした。(寺田)

▶今年で10年目、沢山の方々に取材させて頂きましたが、まだまだ知らない場所やご紹介したい方々がいっぱい。毎回、新鮮な驚きと温かい気持ちに包まれ、刺激を受けています。(松島)

▶初参加です。取材を通じて地域の歴史に触れたり、人と関わったり地域の知らない一面を見ることができました。(山崎)



買い物
するなら
地元の
商店街で